

# 第1回～第60回

## ☆放送時間☆

| 期間                        | 曜日 | 時間帯               |
|---------------------------|----|-------------------|
| 昭和40年7月13日～<br>昭和41年8月30日 | 火  | 12時15分～<br>12時45分 |

司会：三遊亭歌奴

## ☆凡例☆

- |             |       |
|-------------|-------|
| ①サブタイトル・放送回 | ②出演者  |
| ③曲目（歌唱者）    | ④放送概要 |

昭和40年7月13日

- ①「不明」 # 1
- ②田端義夫、渡辺はま子、ディック・ミネ、青山和子、伊藤素道とリリオ・リズム・エアーズ
- ③不明
- ④ 今日からはじまる公開番組で、なつかしのメロディーを紹介する。  
とりあげる曲目はすべて、ひと昔前に流行したもので、歌謡曲の他、軍歌、寮歌、童謡なども紹介する。  
出演するベテラン歌手は、当時のままで歌い、若手は現代風アレンジして歌う。  
第一回の出演者は、田端義夫、渡辺はま子、ディック・ミネ、リリオ・リズム・エアーズ。  
司会は三遊亭歌奴。

昭和40年7月20日

- ①「不明」 # 2
- ②春日八郎、和田弘とマヒナスターズ
- ③不明
- ④不明

昭和40年7月27日

- ①「不明」 # 3
- ②奈良光枝、伊藤久男
- ③不明
- ④不明

昭和40年8月3日

- ①「不明」 # 4
- ②バーブ佐竹、松尾和子
- ③不明
- ④不明

昭和40年8月10日

- ①「不明」 # 5
- ②灰田勝彦、田辺靖雄、森サカエ
- ③不明
- ④不明

昭和40年8月17日

- ①「不明」 #6
- ②東海林太郎、榎本美佐江
- ③「丘を越えて」(不明)、「青い背広で」(不明)
- ④ 同月21日付読売新聞東京版朝刊に、「若手歌手は勉強せよ」との見出しで、東京都目黒区在住の主婦による投書が掲載されているため紹介する。

日本テレビ十七日お昼の「なつかしのメロディー」で、ベテランにまじって、若い歌手が昔の歌をうたいましたが、そのひどさにはへきえきしてしまいました。なかでも「丘を越えて」や「青い背広で」などは、耳をふさぎたくなるほどでした。若い人は、もっともっと歌のおけいこをしてから、マイクの前に立ってもらいたいものです。

昭和40年8月24日

- ①「不明」 #7
- ②榎本健一、畠山みどり
- ③不明
- ④不明

昭和40年8月31日

- ①「不明」 #8
- ②ディック・ミネ、北原謙二
- ③不明
- ④不明

昭和40年9月7日

- ①「不明」 #9
- ②西郷輝彦、青木光一、青山和子
- ③不明
- ④不明

昭和40年9月14日

- ①「不明」 #10
- ②田端義夫、藤本二三代、梶光夫
- ③不明
- ④不明

昭和40年9月21日

- ①「不明」 #11
- ②近江俊郎、こまどり姉妹
- ③不明
- ④不明

昭和40年9月28日

- ①「古賀メロディー特集」 #12
- ②島倉千代子
- ③不明
- ④不明

昭和40年10月5日

- ①「不明」 #13
- ②霧島昇、伊東ゆかり
- ③不明
- ④不明

昭和40年10月12日

- ①「不明」 #14
- ②二葉あき子、織井茂子、若山彰
- ③不明
- ④不明

昭和40年10月19日

- ①「不明」 #15
- ②渡辺はま子、灰田勝彦
- ③不明
- ④不明

昭和40年10月26日

- ①「不明」 #16
- ②淡谷のり子、ディック・ミネ
- ③不明
- ④ 読売TVホールより。

昭和40年11月2日

- ①「不明」 #17
- ②奈良光枝、藤山一郎
- ③不明
- ④不明

昭和40年11月9日

- ①「不明」 #18
- ②並木路子、岡本敦郎
- ③不明
- ④不明

昭和40年11月16日

- ①「東海林太郎ショー」 #19
- ②東海林太郎、山路ふみ子
- ③不明
- ④不明

昭和40年11月23日

- ①「不明」 #20
- ②近江俊郎、二葉あき子
- ③不明
- ④不明

昭和40年11月30日

- ①「不明」 #21
- ②三浦洗一、曾根史郎、音丸
- ③不明
- ④不明

昭和40年12月7日

- ①「不明」 #22
- ②霧島昇、ディック・ミネ
- ③不明
- ④不明

昭和40年12月14日

- ①「不明」 #23
- ②林伊佐緒、美ち奴、三島敏夫
- ③不明
- ④不明

昭和40年12月21日

- ①「不明」 #24
- ②市丸、田端義夫、菊池章子
- ③不明
- ④不明

昭和40年12月28日

- ①「不明」 #25
- ②菅原都々子、フランク永井
- ③不明
- ④不明

昭和41年1月4日

- ①「不明」 #26
- ②東海林太郎、藤山一郎
- ③不明
- ④不明

昭和41年1月11日

- ①「不明」 #27
- ②灰田勝彦、池真理子
- ③不明
- ④不明

昭和41年1月18日

- ①「不明」 #28
- ②田端義夫、小唄勝太郎、榎本美佐江
- ③不明
- ④不明

昭和41年1月25日

- ①「軍歌特集」 #29
- ②伊藤久男、岡本敦郎、梶光夫
- ③不明
- ④ 同年3月29日付読売新聞東京版朝刊に、当日放送の「軍歌特集（その2）」の紹介記事が掲載されているが、同記事では、同日に放送された軍歌特集がいろいろな反響を呼んだことが記されている。

昭和41年2月1日

- ①「不明」 #30
- ②霧島昇、島倉千代子、森サカエ
- ③不明
- ④不明

昭和41年2月8日

- ①「不明」 #31
- ②淡谷のり子、ディック・ミネ
- ③不明
- ④不明

昭和41年2月15日

- ①「不明」 #32
- ②藤山一郎、近江俊郎
- ③不明
- ④不明

昭和41年2月22日

- ①「不明」 #33
- ②菅原都々子、菊池章子、田端義夫
- ③不明
- ④不明

昭和41年3月1日

- ①「不明」 #34
- ②霧島昇、奈良光枝、松原操
- ③不明
- ④ 同月6日付読売新聞東京版朝刊に、「松原操の言葉に感服」の見出しで、東京都世田谷区在住の17歳の女子学生による投書が掲載されているため紹介する。

日本テレビ日昼「なつかしのメロディー」にゲスト出演された松原操さん。司会者がこの番組みで歌っていただきたいとたのんだら「よく勉強し直してから……」といわれましたが、うわついた調子で歌う歌手の多い現在、これら歌手に聞かせたいことばでした。松原さんの声を早くきくことができますよう願っております。

昭和41年3月8日

- ①「不明」 #35
- ②藤山一郎、ディック・ミネ
- ③不明
- ④不明

昭和41年3月15日

- ①「不明」 #36
- ②東海林太郎、春日八郎、松島詩子
- ③不明
- ④不明

昭和41年3月22日

- ①「不明」 #37
- ②高峰三枝子、灰田勝彦
- ③「湖畔の宿」(不明)、「新雪」(不明)
- ④ 同月30日付読売新聞東京版朝刊に、「戦前、戦中の歌に共感」の見出しで、東京都港区在住の18歳の女子学生による投書が掲載されているため紹介する。

日本テレビ二十一日昼「なつかしのメロディー」で歌われた「湖畔の宿」や「新雪」などは、私の胸にじかに響き、よいあと味だった。私はこうした戦前、戦中の歌をきくと、いつもすがすがしい気分になる。ほとんどが、すなおで人間的なものばかりだから。それに比べて、近ごろはんらんしている流行歌の技巧的でオソマツなこと。歌は本来、私たちに希望と安らぎを与える使命を持っているものではないだろうか。

昭和41年3月29日

①「軍歌特集（その2）」 #38

②東海林太郎、灰田勝彦、伊藤久男

③「あゝ草枕幾度ぞ」（東海林）、「麦と兵隊」（東海林）、「ラバウル海軍航空隊」（灰田）、  
「加藤隼戦闘隊」（灰田）、「露営の歌」（伊藤）、「暁に祈る」（伊藤）

④ この1月25日に放送された”軍歌特集”は、いろいろな反響を呼んだ。

今日は、日華事変、太平洋戦争を中心に数多くの軍歌の中から、名曲の数々を選んで放送する。指揮者の松本文男は陸軍戸山学校の出身。

同年4月4日付読売新聞東京版朝刊に、「今後も『軍歌特集』を」の見出しで、千葉県柏市在住の14歳の男子学生による投書が掲載されているため紹介する。

三月二十九日の日本テレビ「なつかしのメロディー」（午後0・15）を見て、私はたいへん感動しました。私たちが思いもしなかった苦しみや悲しいことが、この二十余年前にあったと思うと、目に涙が浮かぶおもいでした。これからも「軍歌特集」として出して下さい。

また、同年4月11日付読売新聞東京版朝刊には、この投書を受けた日本テレビ演出部・井出道雄による返答「昔の歌を次々特集」が掲載されているため、合わせて紹介する。

日本テレビの「なつかしのメロディー」に関し、年配の方々からの古きよき日をしのんでのご意見は局へも数多くよせられておりますが、四日付けの放送塔欄で若い方からおほめをいただき、とくにうれしく感じております。

というのは、この番組みでは日本人の心をうたった歌を文化遺産として父から子へ、子から孫へと伝えていきたいと願っているからです。人の心をうつ歌は時代を越えて生き続けるはずです。

なつかしのメロディー特集版としては、十九日の“東京特集”をはじめ、以後「君の名は特集」さらに再度にわたる軍歌特集も計画中ですのでご期待ください。

昭和41年4月5日

①「不明」 #39

②田端義夫、ディック・ミネ、菅原都々子

③不明

④不明

昭和41年4月12日

①「不明」 #40

②東海林太郎、小唄勝太郎

③不明

④不明

昭和41年4月19日

- ①「東京特集」 #41
- ②藤山一郎、小唄勝太郎
- ③不明
- ④不明

昭和41年4月26日

- ①「不明」 #42
- ②小畑実、伊藤素道
- ③不明
- ④不明

昭和41年5月3日

- ①「不明」 #43
- ②高峰三枝子、ディック・ミネ
- ③不明
- ④ 読売TVホールより。

昭和41年5月10日

- ①「不明」 #44
- ②東海林太郎、田端義夫
- ③不明
- ④不明

昭和41年5月17日

- ①「不明」 #45
- ②ディック・ミネ、渡辺はま子
- ③不明
- ④不明

昭和41年5月24日

- ①「不明」 #46
- ②藤山一郎、霧島昇、二葉あき子
- ③不明
- ④不明

昭和41年5月31日

- ①「不明」 #47
- ②灰田勝彦、淡谷のり子
- ③不明
- ④不明

昭和41年6月7日

- ①「不明」 #48
- ②ディック・ミネ、奈良光枝
- ③不明
- ④不明

昭和41年6月14日

- ①「藤山一郎、灰田勝彦歌合戦」 #49
- ②藤山一郎、灰田勝彦
- ③不明
- ④不明

昭和41年6月21日

- ①「不明」 #50
- ②奈良光枝、霧島昇、渡辺はま子
- ③不明
- ④不明

昭和41年6月28日

- ①「不明」 #51
- ②島倉千代子、榎本美佐江
- ③不明
- ④不明

昭和41年7月5日

- ①「不明」 #52
- ②フランク永井、青山和子
- ③不明
- ④不明

昭和41年7月12日

- ①「不明」 #53
- ②鶴田浩二、灰田勝彦、市丸
- ③不明
- ④不明

昭和41年7月19日

- ①「高峰三枝子ショー」 #54
- ②高峰三枝子
- ③不明
- ④不明

昭和41年7月26日

- ①「不明」 #55
- ②灰田勝彦、南かおる、ポス宮崎とコニー・アイランダース、三島敏夫とそのグループ、伊藤素道とリリオ・リズム・エアーズ
- ③不明
- ④ 同月14日付読売新聞東京版朝刊によると、第10回逗子海上ページェントのプログラムの一つとして、同月24日正午より公開放送として逗子海岸一帯で収録された。

昭和41年8月2日

- ①「不明」 #56
- ②渡辺はま子、田端義夫
- ③「支那の夜」(渡辺)
- ④ 同月7日付読売新聞東京版朝刊に、「感泣する歌手に感動」の見出しで、東京都足立区在住の主婦による投書が掲載されているため紹介する。

日本テレビ二日昼「なつかしのメロディー」は、感動的でした。戦争中、従軍看護婦の娘さんを北支の野戦病院でなくされたというおかあさんが、娘さんの遺影を胸にして、渡辺はま子の「支那の夜」を聞いていましたが、渡辺はま子は、そのおかあさんの姿に歌いきれず涙にむせんでしまいました。明るい歌を堂々と歌い上げるのも結構ですが、こういう悲しみにつながる歌も人それぞれに思い出を新たにしてくれるものがあります。

昭和41年8月9日

- ①「不明」 #57
- ②藤山一郎、ディック・ミネ
- ③不明
- ④不明

昭和41年8月16日

- ①「軍歌特集」 #58
- ②東海林太郎、藤山一郎、霧島昇
- ③不明
- ④ 同月22日付読売新聞東京版朝刊に、「父性愛に泣く」との見出しで、群馬県渋川市在住の療養中の49歳男性による投書が掲載されているため紹介する。

日本テレビ十六日昼「なつかしのメロディー・軍歌特集」は、東海林太郎、霧島昇、藤山一郎三人の歌と、戦時中の写真のそう入で感銘深いものでした。特に特別攻撃隊の植村大尉の遺言の朗読は、愛児素子さんにのこされた父性愛の切々たる心情に泣かされました。私も昭和十四年、生まれただばかりの長女に「征子」と命名、翌日北支の戦線に向かった思い出があり、人の子の親としてあふれる涙を禁じ得ませんでした。

昭和41年8月23日

- ①「不明」 #59
- ②榎本健一、服部富子、池真理子
- ③不明
- ④不明

昭和41年8月30日

- ①「不明」 #60
- ②東海林太郎、藤山一郎、二葉あき子
- ③不明
- ④不明